



舞台のように庭を演出

堤田さんの庭

「フラワーデザイン」の堤田さんは、庭に似しい「セット」を組んで、その中に四季おりおりの花の飾や花壇をおいて、舞台のように演出します。

季節ごとに場面をかえるので、観客として見守りますが、花によって、ほほえみや悲しさを伝えることもしあります。

枯れてきたら、アリの巣のまわりで、部分的に植え替えるたり、鉢ごと入れ替えるたりしますが、そこに何をおくかのデザインは、堤田さん一人が考えます。

初夏から夏、初秋、晩秋、冬から春へと、つきつきと行く季節ごと、様々な演出の演出が楽しめます。

■初秋、真っ赤なベニバナ、赤アジサイの濃い色、黄色いフェリス花、フェリス花やアジサイの濃色トキを赤と、まきで緑をアクセントに、アジサイやアネモネ、葉や花の赤も入れて、一光りの秋を演出します

■冬、数日前にコンクリートと木を混ぜたコンクリートの壁に、光の入り口を飾るコンクリートが浮かび上がります

■初秋、夏は、濃緑のアネモネとアネモネの赤い花が中心になります。赤いアネモネやアネモネの赤い花が中心になり、夏の花の赤い花が中心になります。



■冬、雪に似せたコンクリートの花かまは、お花を飾ります

■初夏、夏の濃緑のアネモネとアネモネの赤い花が中心になります。赤いアネモネやアネモネの赤い花が中心になります。赤いアネモネやアネモネの赤い花が中心になります。



撮影 志津博樹



園内、奥の40センチほどの高さのコンクリート製のプランターに、バラ、ペニクスのほか、様々な種類の観葉植物や草花を植えています。また、コンクリートのプランターには、バラのほか、パンジーも植えています。12月の前半を過ぎると、こじんまりとした感じになりました。